

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400228		
法人名	社会福祉法人実寿穂会		
事業所名	グループホームポート野芥		
所在地	福岡市早良区野芥8丁目7番1号		
自己評価作成日	令和6年11月7日	評価結果確定日	令和6年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和6年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者様が「今を生きる」を理念に、ご自分の存在についてどのように感じ、どのように活かそうとしているかを知ろう努めています。さらに、ご本人の「やりたい・できるかもしれないこと」や楽しみにしていることを引き出すために、支援を行い、お一人お一人の「思い」や家族の「願い」を実現するケアを実践しています。ご家族や地域の皆様と協力しながら、あたたかくて安心できる暮らしを創造することを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームポート野芥」は平屋建ての建物で、平成27年に開設された2ユニット事業所である。母体法人は長崎県で保育園を運営しており、福岡市内にも介護施設を展開している。利用者一人ひとりの思いや夢実現に向けたケアを実践しており、お一人お一人のペース、意思を尊重し主体的な生活が送れるように支援している。職員間は日常的に意見や相談ができ、生き生きと仕事をしており、働きやすい職場である。地域の中で安心と満足を感じていただける事業所づくりと、利用者に寄り添った支援の実践を目指している。今後も地域との交流に力を入れる取り組みが見られており、益々の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念「今を生きる」を基に、各ユニットごとに具体的な目標を設定しています。理念は事務所内に掲示し、ユニット会議で共有・実践しています。これにより、入居者と職員が共通の目標を持ち、共に支え合いながら温かく充実した生活を送れる環境を提供しています。	法人理念と事業所理念がある。事業所理念「今を生きる」を事業所内の目に付く場所に掲示している。理念を元に、毎月各ユニット会議で具体的な目標を設定し実践している。職員は各自の個人目標を作成し、年2回管理者と個別面談を行い振り返りを行っている。全職員が理念に基づいた日々のケアの実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館イベントや文化祭、校区の秋祭りなど、地域のイベントに積極的に参加しています。地域と馴染みの関係を継続する事により絆が深まり、入居者にとって楽しい思い出や交流の場面となっています。	地域交流センターにオカリナ演奏を聴きに行った。公民館イベントにも積極的に利用者と一緒に参加している。高校生の介護実習の受け入れも行った。グループホームのネットワークに積極的に参加している。地域包括支援センターより相談を受け、事業所で福岡市が主催する「よかトレ」の開催を予定している。散歩時に近隣の方と挨拶を交わして、関係性を築いている。	来年より福岡市が主催する「よかトレ」の開催を予定しているとの事。今後も地域との関りが増えていくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日、入居者と一緒に散歩を楽しみ、地域の皆様との絆を大切にしています。老人クラブからの講話依頼にも応じ、介護サービスについてお話しています。地域との交流を通じ、より良いサービス提供に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、入居者の状況やサービスを報告しています。出席できない方には状況報告書を郵送し、ご家族や地域の方との情報交換にも配慮しています。地域包括支援センターと連携し、認知症対応の勉強会も実施しました。円滑な情報共有と地域との連携を大切にしています。	2か月に1回開催。公民館長・薬局の方・地域包括支援センター・管理者・利用者が参加している。家族には持ち回りで出席してもらう。入居状況・行事報告・法人理念・職員入退社・先月の会議の振り返り・次回開催日等を報告し、参加者からは意見や質問、地域の情報も得ている。包括支援センターと連携し認知症対応の勉強会も実施し、サービス向上に活かしている。議事録は参加者・市役所・家族に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録や広報誌を送付し、現状を共有しています。また、地域包括支援センター主催の認知症対応の勉強会開催をサポートしました。地域と協力し、質の高いサービス提供を目指しています。	運営推進会議の議事録や広報誌「みずほ便り」、介護保険の申請書を郵送している。事故報告や運営上の不明な点などを質問したり、訪問し相談している。事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束検討委員会を中心にeラーニングを用い研修を実施し、身体拘束をしないケアの実践に努めています。鍵を希望する入居者にはお渡しし、居室の吐き出し窓は基本的に施錠していません。入居者のニーズに柔軟に対応し、安心できる生活環境を提供しています。	身体拘束をしないケアに職員全体で取り組んでいる。身体拘束委員会を定期的に開催し、職員はeラーニングを用いてスピーチロックを含めて拘束について学んでいる。玄関に行き外に出ようとしている時には、無理強いせず、散歩に行ったり、傍で落ち着くまで見守り対応している。離設があったが、近隣の方が教えてくれる等の協力体制が築けている。利用者の不安を取り除く為に、管理者が日々の行動のデーターを集計・分析する等、よりよいサービスが提供できるように取り組んでいる。	

R6.11 自己・外部評価表(グループホームポート野芥)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	計画作成担当者に事故・リスクマネジメント研修を実施し、習得した知識をOJTで職員に伝えています。虐待防止委員会を中心にアンケートを実施し、虐待に繋がらないように知識を共有しています。特に虐待予防に配慮し、安全で信頼できる環境づくりに努めています。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用し、後見人2人と保佐人1人が指定された入居者がいます。施設の提案に基づき制度利用が決まり、入居者の福祉と安全を最優先にサポートしています。	成年後見制度の利用者が3名と保佐人の利用者が1名いる。職員はその実例を通して認識を共有している。パンフレットはその都度、準備している。必要時には管理者が窓口となり、説明はホーム長が行い、行政に繋ぐ体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を丁寧に説明し、了承を得て契約しています。制度改正や方針変更時も説明し、同意書で了承を確認しています。コミュニケーションを大切に、信頼関係を築いています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価アンケートを重視し、ご家族の意見を積極的に反映しています。日常的に連絡を取り、入居者の状況を報告し、ご意見や要望を伺っています。信頼関係を築き、より良いサービス提供を目指しています。	職員は利用者を3名担当しており、日頃の様子や状況を毎月手書きで手紙を送付している。2ユニットの「煌だより」「雫だより」において、グループホーム内の様子を知らせている。計画作成者が気が付いた事がある時は、すぐに家族と連絡を取る。訪問時や電話で家族から意見や要望を伺っている。外部評価のアンケートを重視し、家族の意見に積極的に反映している。	利用者1人一人と向き合い日々の行動データの集計・分析を行い、本人の思いを尊重し、くみ取っている。外部評価アンケートにも事業所の取り組みの心が届いている声が、寄せられている。今後も喜びの声が、事業所全体の励みとなる事と期待している。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事担当者が定期的に施設を訪問し、職員と意見を交換しながら提案を聞き取る取り組みを行っています。これにより、職場の改善や効果的な人事政策の実施が進みます。従業員の声を大切にし、働きやすい環境を共に作り上げることで、職員のモチベーションも高まっています。	毎月1回各ユニットで職員会議があり、欠席者にも議事録や資料を回覧して情報共有している。ケアの方法や、備品の提案等について要望を出せば速やかに反映してくれる。職員は、利用者にいつもと違うところを感じた時などは積極的にあげるようにしている。管理者と年2回の面談もある。管理者が現場にいたことが多く、日頃から相談しやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年間目標を設定し、半年に一度の面談で達成状況を確認しています。面談では目標達成度や課題を把握し、必要なサポートやトレーニングを受けます。適切な評価とフィードバックにより、働きやすい環境が実感でき、職務満足度が向上します。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	70代～20代の幅広い年齢層の職員を男女問わず採用し、介護への関心や働く意欲を重視しています。各職員に個人目標を設定してもらい、アドバイスや研修参加を奨励しています。職場の多様性を尊重し、スキルやキャリアの成長を支援する環境を提供しています。	男女比は約4:6で、20～70歳代の幅広い年齢層や外国からの実習生も勤務し、職員同士のコミュニケーションは良好である。希望休なども取りやすく、休憩時間・休憩場所も確保されている。資格取得に向けた支援や、外部研修の案内などもあり、個々のスキルアップに向けた支援もある。壁面装飾やおやつ作りなど職員の能力や特技を生かしている。個人として地域の「ふれあいサロン」「こども食堂の食事推進委員」などの活動を通じ毎日の勤務に活かしている。それぞれ自己実現に向けて、生き生きと楽しく仕事をしている。	

R6.11 自己・外部評価表(グループホームポート野芥)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員はウェブで人権学習に参加し、虐待などについて学んでいます。また、人権啓発ビデオを視聴し、全職員がアクセスできるウェブ研修を実施しています。この取り組みで、職員全員が人権に関する知識を共有しています。	各職員はeラーニングを用いて、人権学習に参加し理解を深めている。年1回「虐待の芽のチェックリスト」を実施し、利用者に対する言葉遣い等を振り返り、気づくことができ人権尊重に対する意識を高めている。フィードバックにて次のeラーニングのプランを立て学んでいる。職員全員が人権に関する知識を共有している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人の研修に積極参加し、職員のスキル向上を図っています。また、ベトナム人・ミャンマー人技能実習生を受け入れ、国際交流と多文化協力を促進。これにより、専門知識と技能の向上を支援し、施設のサービス向上に貢献しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ポート賀茂の計画作成担当者と相互訪問を通じて交流し、施設の質を向上させる相談を行っています。また、グループホームのネットワークに積極的に参加し、意見交換や施設間の交流を行います。これにより、知識や情報を共有し、利用者の生活の質を向上させています。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入居希望者の「本人の思い」を確認するため、「24時間暮らしの情報シート」をご家族に記入してもらいます。入居前に訪問調査と情報収集を行い、本人の要望に最大限対応します。入居後もライフスタイルや希望に沿った生活を提供することを目指しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望者には施設見学に来てもらい、楽しみや要望を事前に聞いています。契約前のオリエンテーションでご家族とのコミュニケーションを重視し、関係性を築きます。これにより、入居者とご家族の具体的な希望に基づいたサービスを提供しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の思いを大切に、ご家族と施設が一体となり、入居者に必要なサービスを提供しています。チームの連携で質の高いケアとサポートを目指しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の暮らしの継続を大切に、「今を生きる」という意識を持っています。得意なことや楽しみを共有し、学び合い、励まし合う信頼関係の中で、生活の充実を支援しています。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランには家族の役割を明記し、積極的な参加を促しています。思い出に残る瞬間を共に作り、ご本人を中心に据えたチームで良い関係性を築いています。		

R6.11 自己・外部評価表(グループホームポート野芥)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思いを尊重し、夢実現をサポート。馴染みの場所や行きたい場所への訪問を実現し、家族にもイベントや外出に参加してもらいます。遠方への外出時は家族同行を受け入れ、入居者の特別な瞬間を共有し、喜びや思い出を共に築いています。	利用者の思いを尊重し夢実現をサポートする。家族と一緒に馴染みの美容室や、商店街へ外出したり、入院中の夫のお見舞いに行った。家族の希望で、職員・家族と一緒に通夜・お葬式に行かれた利用者もいる。友人・知人の訪問もあり旧功を温めることもある。「夢実現」に向けて家族にも協力してもらい、馴染みの場所や人との継続的な交流が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介在して会話をサポートし、編み物や洗濯物たたみなどの活動を通じて支え合える環境を提供。これにより、入居者同士が絆を深め、共に過ごす喜びを分かち合える場を提供しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族には定期的に連絡を取り、入居後の様子を伺います。看取りの際には特別な日に訪問し、初盆には線香を送ります。退居後も絆を大切に、温かなサポートを提供しています。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に24時間暮らしの情報シートを用いたアンケートを実施。これにより、入居後も生活スタイルを維持し、自分らしい生活を続けられるように努めています。入居後も生活パターンに合わせて24時間シートを更新し、本人の意向を尊重したケアを提供しています。	インテークは管理者や計画作成担当者が訪問する。本人・家族から24時間暮らしの情報シートを使用し、これまでの生活歴・馴染みの暮らし方・要望・不安なことなどを聞き取り、把握に努めている。思いを表出することが難しい方には表情・仕草・何気ない言葉などから思いをくみ取り、本人本位に検討している。ケアプラン更新時や状況が変化した際には、計画作成担当者が、随時アセスメントの更新を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から「24時間暮らしの情報シート」と「嗜好調査」で情報収集し、入居後も慣れ親しんだ生活リズムを尊重します。これにより、日常の中で自宅と同じような時間の流れを維持できるよう配慮しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個々のペースや生活リズムを尊重し、入居者の表情や言動に注意を払い、現状を把握するよう心がけています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式、24時間シートから得た「できること・できるかもしれないこと」をカンファレンスで話し合い、ケアプランに活かしています。ユニット会議や申し送りでの意見も反映し、シートを定期的に更新し、入居者に適したケアを提供するよう努めています。	各ユニットの計画作成担当者が半年～1年ごとにプランを見直し、その際に担当者会議を開催し、本人・家族の意向・医師・薬剤師・歯科医師等から口頭や書面により意見をもらう。モニタリングは、計画作成担当者が介護記録を確認しながら作成している。日々の実施については電子記録と24時間シートにより把握し、ケアプランと紐づいている。1名の利用者に2名の職員が担当している。現場からの意見もふまえ、評価・課題分析を行い変化を見逃さないようにして、現状に即した介護計画を作成している。	

R6.11 自己・外部評価表(グループホームポート野芥)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子を詳細に個別記録し、気づきや異常があれば申し送りノートに記入し情報を職員同士で共有し、入居者の状態を細やかに把握することで、適切なサポートを提供しています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生れるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調や状況に応じて食事形態を柔軟に変更し、好きなものを提供しています。食事を楽しむことで、生活の質の向上に努めています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館イベントや文化祭、校区の秋祭りなど、地域のイベントに積極的に参加しています。地域と馴染みの関係を継続する事により絆が深まり、入居者にとって楽しい思い出や交流の場面となっています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続受診を希望される方は、ご家族の意向を尊重し、連携を維持します。提携の訪問診療や訪問歯科サービスも契約し、日常の様子や体調の変化を共有しています。入居者の健康状態を把握し、適切な医療・歯科ケアを提供しています。	かかりつけ医の継続受診を希望される方は、本人及び家族の意向を尊重し連携を維持している。協力機関の医師による訪問診療や訪問歯科サービスも契約し適切な医療が随時受けられる体制が整っている。他科受診は家族に受診をお願いしているが、難しい場合は事業所が通院介助している。職員間でも情報を共有し、家族への報告もこまめに行っており、家族の安心に繋がっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の入居者の状況を観察し、訪問診療時に必要な情報を提供しています。健康状態やケアに関する相談・助言を受けることで、綿密な情報共有と的確な医療サービスの提供が可能となっています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療機関と情報共有を行い、入院中はスタッフが見舞い訪問して入居者の状態を把握し、医師やソーシャルワーカーと連携して退院後のサポートを話し合います。入退院プロセスをスムーズに行うことで、入居者のダメージが最小限となるよう努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年は4人の入居者の看取り介護を行いました。契約時に病状が重度化した場合や終末期について詳しく説明し、最適な提案を行っています。主治医と綿密に連携し、入居者の最期を安心して穏やかにするよう努めています。	今年は5名様の看取り介護を行った。契約時に看取りの説明を行い、重度化した場合は家族や医師と話し合いを重ねて事業所でできることを十分に説明しながら、方向性を決めている。看取り介護が必要となった時に随時、情報共有を行っている。看取りの研修と共に、看取り後に職員と話し合いを行い、管理者は職員のメンタル面にも心を配り、次のケアに繋げるようにしている。	

R6.11 自己・外部評価表(グループホームポート野芥)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、施設内の目に付く場所に掲示し、入職時の研修カリキュラムにも含め、いざという時に職員が迅速かつ適切に対応できるよう周知徹底しています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを策定し、防災訓練を年2回(日中・夜間想定)実施。通報装置や水消火器の使用方法を訓練し、入居者と職員の安全を確保しています。備蓄品を準備し、BCP訓練(感染・自然災害)も実施し、いつでも対応できるように備えている。	災害対策のマニュアルやBCPは策定している。年2回防災訓練(日中・夜間想定)やBCP訓練も実施している。避難場所(公民館)のルート確認し、全ての職員が実践できるように訓練し、消防署へ報告書を提出している。訓練後、職員間で話し合いを行い、防災知識の向上を図っている。災害対策のマニュアルや非常時の備蓄等も十分確保している。	
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月のユニット会議でユニットチェックを実施し、入居者の気持ちに配慮した声かけや言葉遣いを心がけています。個人情報の取り扱いにも注意し、家族への報告は別室で行います。これにより、入居者と家族が安心して生活できる環境を提供しています。	接遇やプライバシー保護等の動画研修を定期的 to 実施している。トイレ介助の際は必ず扉を閉める等、羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。24時間シートを基にひとり一人のペースに合わせたケアに取り組んでいる。言葉遣い等、気になる言動があった際は、職員同士で注意し合っている。契約時に写真等の利用を含めた個人情報に関しては書面で同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望に耳を傾け、日常の会話を通じて自己決定をサポートするようにしています。可能性を探り、活力を最大限に引き出すため努力しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間シートを基に、「食べる・寝起きする・排泄する」という基本に沿ってサポートを実施しています。起床や朝食など、個々の習慣に応じて声かけし、覚醒後に食事を提供する等、一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時には選択肢を提示し、髭剃りや化粧などの整容サポートを提供し、身だしなみに気を配り、その人らしさを保てるよう心がけています。個々のニーズに合わせたサポートを行っています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外部業者から納入し、入居者同士が協力して盛りつけや食器洗いを行い、職員は手伝います。食べたい物がある場合は外出支援やご家族の持参で対応し、個々のニーズや希望に応じた食事サポートを行います。	外部の配食業者より調理済みの食材が届き、事業所にて加熱し、盛り付け・配膳・食器洗い等、出来ることを利用者と一緒に行う。ご飯は事業所で炊く。毎食栄養バランスの取れた食事を提供するとともに、各利用者の嚥下状態に合わせた形態に対応している。おやつレクでは事業所の菜園で取れたさつまいもでんぷらを作ったり、利用者の得意な料理を一緒に作る。誕生日には利用者が食べたい物の要望を聞き取り、反映されている。事業所内でも楽しんでもらえる工夫をし、食事が楽しいひとときになるように努めている。	

R6.11 自己・外部評価表(グループホームポート野芥)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量を詳細に記録し、病状に応じて水分摂取量を管理します。補食は入居者の好みや習慣に合わせ、家族と協力して対応しています。本人の好きな食べ物を準備し、食事環境に応じた支援を提供する等、個々のニーズと健康状態に合わせた食事サポートを大切にしています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔機能維持管理体制加算を算定しています。毎月職員が訪問歯科医の講習を受け、入居者が毎食後に歯磨きを行った後、職員が口腔内を確認しサポートします。入居者の口腔健康を維持し、適切なケアを提供するよう努めています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを基に、入居者の生活の継続を尊重します。「食べて・寝起きて・出す」を基準に、排泄パターンに合わせて声かけを行い、リハビリパンツからコットンパンツへの変更できるよう取り組み、生活の質を維持し、入居者が快適に過ごせるよう努めています。	排泄チェック表を確認しながら、利用者それぞれに合わせたタイミングでトイレ誘導している。出来る限りトイレでの排泄が出来るように配慮し、パット利用も利用者の負担が軽減できるような物への交換などを、適宜提案している。トイレは各ユニットに3ヶ所あり、車いすの介助がしやすい。一人ひとりの力や排泄のパターン・習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・褥瘡予防委員の提案を基に、便秘改善の運動や水分量の確保、腸活を実施しています。定期的に排泄の変化を確認し、必要な対応を行います。24時間シートに情報を反映させ、安心できる環境を整えています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日程は決められていますが、タイミングは入居者に伺って決めます。夜間を除く好きな時間に柔軟に対応し、毎回新しいお湯を使用します。湯温や入浴時間も希望に合わせて調整し、情報は24時間シートに記載することで、個々のニーズに応じたサポートで快適な入浴環境を提供しています。	週2回午前中の中の入浴を基本としているが、利用者の希望や体調に配慮しながら柔軟に対応している。拒まれた際も無理強いせず、タイミングが合う時に提供し、清潔な状態が保てるように支援している。好みのボディソープ・シャンプー・入浴剤を使用したりと喜ばれている。入浴時に皮膚観察もしており、何かあった際にはすぐに医師や訪問看護師との連携も取れるようにしている。入浴は大事なコミュニケーションの場としている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間シートを活用し、入居者が自宅と同様の環境で生活できるよう配慮しています。日中の活動に合わせて休息時間を設け、必要なサポートを提供することで、安心感と自分らしい生活を維持できるよう努めています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携で、薬の一包化や服用しやすい形態への変更し、効能や副作用の共有を行います。入居者が適切な薬物療法を受けられるよう、職員間で情報を共有し、健康と安全を守る体制を整えています。		

R6.11 自己・外部評価表(グループホームポート野芥)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の意向や好みを尊重し、できることを支援します。ケアプランにも反映し、願望や夢を実現するためのサポートを提供し、充実した日々を過ごせるよう努めています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話を通じて入居者の思いを理解し、夢や希望をサポートしています。毎月、買い物や外出、食事、ドライブを計画し、楽しんでる活動を実現しています。中庭や玄関先に椅子を設置することで、安心して外出や休憩を楽しめる環境を提供しています。	利用者の夢実現の為、少人数で、ドライブでやよいの風公園のコスモス見学にいたり、近隣の公園で川魚を見たり鴨が来ていることもある。日頃から毎日、近隣を散歩したり、スーパーに職員と一緒に買い物に行くなど、地域の方と挨拶を交わす機会も多い。事業所の畑の収穫等で気分転換や筋力維持を図っている。中庭や玄関先に椅子を設置し、中庭ではお茶を楽しんだり、玄関先のいすでくつろいだりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が希望すれば、自身の財布にお金を所持できます。買い物や外食の際に支払いをサポートし、自分の選択や趣味に応じた活動を自由に楽しめます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	契約時に連絡方法を話し合い、入居者が家族と電話できるようサポートしています。特別なイベントや季節の挨拶で年賀状や残暑見舞いを送る手伝いも行います。これにより、入居者は家族との絆を保ちつつ、施設内での生活を楽しめます。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	煌ユニットは和モダンな玄関をイメージ、雫ユニットは緑のある洋風を演出しています。食堂やリビングはくつろげる配置で、季節の生花やオルゴール、昔の名曲を流しています。これにより、自宅のような居心地の良い環境で豊かな日常生活を提供しています。	事業所は1フロア2ユニットの構成で白い色と木目調を基調とした温かみがある空間である。食堂は明かり取り窓から柔らかな日差しが降り注ぎ穏やかな時が流れている。音楽や照明も配慮されており、明るく清潔感がある。掃除も行き届き、衛生面にも気配りがなされている。テレビ周りにソファスペースがあり、それぞれが好きな場所でゆったりと過ごしている。中庭には、利用者が選んだ鉢植えに愛らしい花が咲き、穏やかに居心地よく過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットごとに異なる場面を設け、入居者が好きな場所でくつろぎや交流ができるようにしています。話を楽しむ場面や独りで静かに過ごす場面に合わせて、適切な椅子やソファを配置し、居心地の良い環境で日常生活を楽しめます。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みのある物の持参を奨励し、自宅に近い環境を提供しています。入居者や家族と部屋の配置を綿密に相談し、毎月ユニット会議で部屋の評価を行います。快適な生活環境を提供するため、入居者らしい部屋づくりを目指しています。	各居室は日当たりがよく、8畳程の洋間フローリングで介護ベッド、エアコン、収納棚が備え付けられている。使い慣れた家具や、音楽が趣味でギターなどを置かれている方もいる。家族の写真などを飾り、安心して心地よく過ごせるように工夫している。居室では好きな音楽を聴いたり、編み物をしたりとそれぞれ午後のひと時を楽しんでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニットごとに食事・くつろぎ・記録の場を整えています。庭はパブリックスペースとして提供され、洗濯物を干したり取り込む活動を支援しています。建物全体に手すりを設置し、バリアフリー環境で自由な移動をサポートしています。安心して施設内を移動し、必要な活動が行えます。		